様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　４ 月　９ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００５７１

研究課題名（和文）中国のモンゴル系民和土族語における文法記述と語彙に関する総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study on the Grammatical Description and Vocabulary of the Minhe Monguor Language in China

研究代表者
塩谷　茂樹（Shiotani, Shigeki）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：７０２７３７３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：「中国のモンゴル系民和土族語における文法記述と語彙に関する総合的研究」と題する本研究は、中国の甘粛・青海省におけるモンゴル系民和土族語を取り上げ、共時的見地から、当該言語の詳細な文法記述と語彙調査を行うとともに、通時的見地からは、モンゴル祖語から受け継がれた共通特徴と当該言語で独自に発展させた改新特徴を明らかにすることで、モンゴル語族の中での民和土族語の位置付けを目指した。
　本研究の結果、2020～2023年度の研究期間中、本研究テーマに関し、学術論文を6本公刊（うち2本は近刊予定）したほか、国際学術会議や公開セミナーで、口頭発表を5本すべてモンゴル語で行う等、国内外に研究成果を公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　研究期間内に実施した研究成果として、民和土族語の音声的特徴として、母音変化と子音変化の2つの主要な音声変化を明らかにしたほか、形態・語彙的特徴として、当該言語の派生接尾辞の記述に成功した。また統語的特徴として、当該言語特有の述語における主観・客観形式の弁別に関する基礎的研究を行った。さらに意味的特徴として、若干の語彙に言及し、通時的側面から意味変化の過程を明らかにした。
　総合的に見ると、上記研究成果によって、モンゴル語族における民和土族語の位置付けの問題に深く分け入り、当該言語の全容解明に一定の結果を残したものと評価できる。

研究成果の概要（英文）：　This study, entitled “A Comprehensive Study on the Grammatical Description and Vocabulary of the Minhe Monguor Language in China”, aims to positioning the Minhe Monguor language within the Mongolian language family by conducting a detailed grammatical description and lexical survey of the language from a synchronic point of view and clarifying common features inherited from the proto-Mongolian language and innovation features developed independently in the language from a diachronic point of view.
　As a result of this research, during the research period of FY2020 to FY2023, we have published seven academic papers (two of which are scheduled to be published soon) on this research theme, and have made our research results available both domestically and internationally, including five oral presentations at international academic conferences and public seminars, all of which were given in Mongolian.

研究分野：モンゴル言語学

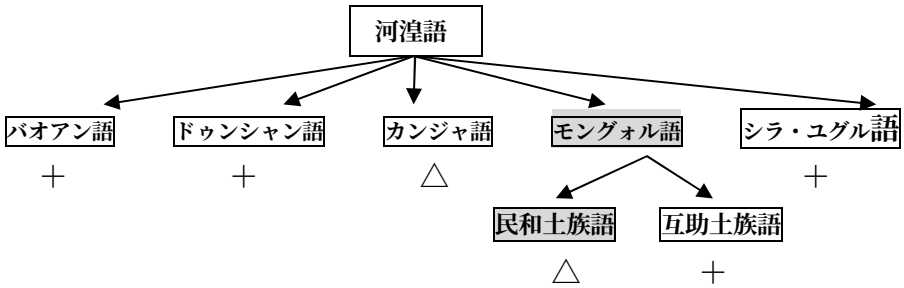
キーワード：モンゴル語族　民和土族語　文法記述　語彙　通時的音声変化　派生接尾辞　通時的意味変化　述語の主観客観形式

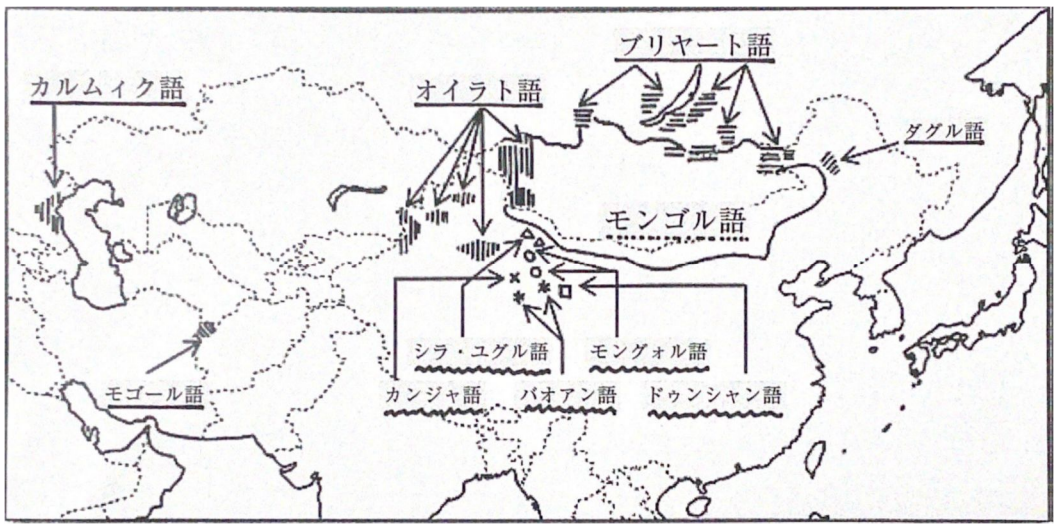
※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)「中国のモンゴル系民和土族語における文法記述と語彙に関する総合的研究」と題する本研究は、中国の甘粛・青海省におけるモンゴル系孤立的諸言語、通称「河湟語」の 一つに位置付けられるモングォル語（土族語）のうち、民和土族語（The Minhe Monguor Language）（話者人口推定 1 万人）は、国内外での記述研究が極めて不十分であり、その実態があまり知られていない。そのために、まずは共時的見地から当該言語の詳細な語彙調査を重点的に行い、さらに文法記述を徹底的に行うことにより、当該言語の全容を解明することが急務であった。




モンゴル語族の言語分布図

（塩谷 茂樹編訳・著,思沁夫 絵・コラム (2014)『モンゴルのことばとなぜなぜ話』p.212 掲載 大阪大学出版会）

研究の現状：

上図で，言語の下の記号は，＋は記述がかなり進展していることを，△は調査が不十分で今後詳細な記述研究が急務であることを，それぞれ示している。

(2) 研究従事者は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催の 2018 年度言語研修で主任講師（母語話者がネイティブ講師）として「土族語（中国のモンゴル系民和土族語）」を担当し、言語研修用テキスト 4 冊（参考文献参照）を執筆するとともに、2018 年 8 月 1 日から 8 月 31 日までの合計 120 時間、受講生たちに当該言語を教授した経験があり、研究の基盤は整っていたと言える。

２．研究の目的

「民和土族語」を取り上げ、共時的見地から、当該言語の詳細な文法記述と語彙調査を徹底的に行うことにより、民和土族語が一体どのような言語なのか、その全体像を明らかにするとともに、通時的見地からは、モンゴル祖語から受け継がれた共通特徴と当該言語で独自に発展させた改新特徴を弁別し明らかにすることで、モンゴル系言語全体（＝モンゴル語族）の中での民和土族語の位置付けを目指した。

３．研究の方法

(1) 民和土族語の詳細な文法記述をする→ 共時的立場から民和土族語の文法体系を詳らかにすることにより、モンゴル語族、とりわけ中国の甘粛・ 青海省のモンゴル系「河湟語」の中でも、記述が最も立ち遅れている言語を重点的に研究することは学術的に大変意義深く、モンゴ

ル言語学における方言研究の分野に寄与するものと大いに期待される。

(2) 民和土族語の語彙調査をする→ 民和土族語の語彙を徹底的に調査することにより、民和土族語の語彙の全体像を明らかにすることができるのみならず、民和土族語の個々の語彙を、13世紀のモンゴル文語 (Written Mongolian) や 13～14 世紀の中世モンゴル語 (Middle Mongolian) 、さらには現在のモンゴル国のハルハ・モンゴル語 (Khalkha Mongolian) などの語彙と比較することにより、通時的立場から民和土族語の語彙が モンゴル祖語 (Proto-Mongolian) からどのような音声的・形態的変化を遂げたのか、とりわけモンゴル祖語から受け継がれた“共通特徴”と 当該言語で独自に発展させた“改新特徴”を弁別することにより、最終的には、モンゴル系言語全体（＝モンゴル語族）の中での民和土族語の位置付けも可能となることが期待される。

## ４．研究成果

研究期間内に実施した研究成果として、民和土族語の音声的特徴として、母音変化と子音変化の 2 つの主要な音声変化を明らかにしたほか、形態・語彙的特徴として、当該言語の派生接尾辞の記述に成功した。また統語的特徴として、当該言語特有の述語における主観・客観形式の弁別に関する基礎的研究を行った。さらに意味的特徴として、若干の語彙に言及し、通時的側面から意味変化の過程を明らかにした。

本研究の結果、2020～2023 年度の研究期間中、本研究テーマに関し、学術論文を 6 本公刊（うち 2 本は近刊予定）したほか、国際学術会議や公開セミナーで、口頭発表を 5 本すべてモンゴル語で行う等、国内外に研究成果を公開した。

本研究テーマに関連した公刊済みの学術論文のみを列挙すると、次の通りである。

(1) **音声的特徴：通時的音声変化**

「民和土族語の通時的母音変化について」,『言語文学研究』, Vol.12(44), 98-106, 2019 年 11 月（ただし、研究期間開始前年度に刊行）

「民和土族語の通時的子音変化について」,『モンゴル語文研究の発展と傾向』, 146-157, 2023 年 1 月

(2) **形態・語彙的特徴：派生接尾辞の記述 / 通時的意味変化**

「民和土族語の派生接尾辞の研究」,『外国語教育のフロンティア』, Vol.6, 21-38, 2023 年 3 月

「民和土族語における若干の飲食物名の音声・意味変化について」,『外国語教育のフロンティア』, Vol.7, 11-27, 2024 年 3 月

(3) **統語的特徴：述語における主観・客観形式の弁別**

「民和土族語の述語形式に関する初歩的研究 —モンゴル語族内の位置づけと主観･客観形式の弁別をめぐって—」,『言語文化研究』, Vol.48, 229-248, 2022 年 3 月

本研究実績を総括すると、上記研究成果によって、モンゴル語族における民和土族語の位置付けの問題に深く分け入り、当該言語の全容解明に一定の結果を残し、今後のさらなる研究への基盤を築くことができたものと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩谷茂樹 | ４．巻<br>第48号 |
| ２．論文標題<br>民和土族語の述語形式に関する初歩的研究－モンゴル語族内の位置づけと主観・客観形式の弁別をめぐって－ | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>『言語文化研究』大阪 | ６．最初と最後の頁<br>pp.229-248 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩谷茂樹 | ４．巻<br>1 |
| ２．論文標題<br>民和土族語の通時的子音変化について（モンゴル語） | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>『モンゴル語文研究の発展と傾向』オラーンバータル | ６．最初と最後の頁<br>pp.146-157 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩谷茂樹 | ４．巻<br>Vol.6 |
| ２．論文標題<br>民和土族語の派生接尾辞の研究（モンゴル語） | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>『外国語教育のフロンティア』大阪 | ６．最初と最後の頁<br>pp.21-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩谷茂樹 | ４．巻<br>Vol.7 |
| ２．論文標題<br>民和土族語における若干の飲食物名の音声・意味変化について（モンゴル語） | ５．発行年<br>2024年 |
| ３．雑誌名<br>『外国語教育のフロンティア』大阪 | ６．最初と最後の頁<br>pp.11-27 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　2件／うち国際学会　3件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>塩谷茂樹 |
| 2．発表標題<br>民和土族語の通時的子音変化について（モンゴル語） |
| 3．学会等名<br>モンゴル科学アカデミー言語文学研究所創立100周年記念（国際学会） |
| 4．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>塩谷茂樹 |
| 2．発表標題<br>民和土族語の若干の派生接尾辞の継承と革新について（モンゴル語） |
| 3．学会等名<br>歴史と現代モンゴル語諸方言：共通性と発展特徴（国際学会） |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>塩谷茂樹 |
| 2．発表標題<br>民和土族語の動詞 *ki- の歴史的変化について－現代モンゴル語と比較して（モンゴル語） |
| 3．学会等名<br>モンゴル語方言研究（国際学会） |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>塩谷茂樹 |
| 2．発表標題<br>民和土族語における若干の飲食物名の音声・意味変化について（モンゴル語） |
| 3．学会等名<br>研究者の新見解－新研究（第8回連続公開セミナー）（招待講演） |
| 4．発表年<br>2024年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>塩谷茂樹 |
| ２．発表標題<br>民和土族語の述語形式に関する基礎研究－モンゴル語族における位置付けと主観・客観形式の弁別（モンゴル語） |
| ３．学会等名<br>モンゴル語と文字の遺産（第3回連続公開講義）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2024年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩谷茂樹監修、Ya．バダムハンド著 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>大学書林 | ５．総ページ数<br>256 |
| ３．書名<br>『モンゴル語オノマトペ用法辞典』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|